

社会

➡ 5年生 | 「自動車をつくる工業」

みんなが主体的に参加できる ポスター作り

1. はじめに

本稿は、自動車の学習の最後に、ポスターを作って、ポスターセッションを行った時の実践である。5年生の社会科の授業に限ったことではなく、ポスター作りの時の参考になれば幸いである。

単元の最後にポスターを作る時、いつも気になっていたのは、ポスターを書く人が1人であることだ。4人でポスターを作るなら、残りの3人が活動停止の状態になってしまう。そこで考えたアイディアは、「切って貼る」ポスター作りである（写真1）。

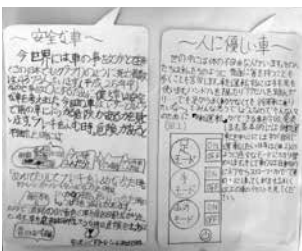


▲写真1

2. 切って貼るポスターを作る

この単元では、学習のまとめに未来の自動車をポスターに書いた。これまでの学習で、「事故から命を守りたい」という願いに応えるために「エアバッグが開発された」等のことを学んだ。ならば、私たちの未来の自動車も同じように私たちの願いを叶えてくれるだろうということで、ポスター作りが始まった。

作る際、たとえば4人でポスターを作るなら、1人が1つの願い（視点）を、責任をもって考える。すると4つの願いを持った未来の車のポスターができる。「安全な車」や「人に優しい車」のような視点である（写真2）。それを自分に



▲写真2

割り当てられた大きさの画用紙や色画用紙に書き、自分の好みの形にカットして、模造紙に貼っていく。

そうすることで、次のような利点が生まれる。

- ①4人が同時に作業をするため時間に無駄がない。
- ②自分の考えを自分で書くので、担当場所に対して責任が生まれる。また、所属するグループのポスターに対しても愛着が生まれる。
- ③白いポスターに色マジックで書くより、下地に色画用紙を使ったり、台紙に色模造紙を使ったりすることで、視覚的に楽しいポスターに仕上がる。
- ④ペンで書くというだけの作業から、切って貼るという作業が含まれるので、工作のイメージが膨らむ。

写真1のポスターは、割と真面目な作品だが、自分の担当が先に終わった子は、タイトルを色画用紙で凝った作りをしたり、中には未来の車を立体的に作ったりして、みんなを驚かせた。

ポスターが完成したら、ポスターセッションを行いたい。責任と愛着のあるポスターなので、説明にも力が入る。余った色画用紙を使って、説明用の指示棒を作れば、さらに力がこもる。力のこもった説明を聞けば、力のこもった質問が出る。子どもはつい指をさして聞いてしまう（写真3）。

以上のような方法でポスターを作れば、クラスの子どもたち全員が「お客さん」にならず、最後まで主体的に学ぶことができるだろう。



▲写真3